

# おけのこ

大鬼蓮 (別府 海地獄)

## 2022年 第1回定例県議会

### 新型コロナ、新たな変異にも万全に 社会経済の再活性化を



二月二十五日に開会した二〇二二年第一回定例県議会は、三月二十五日に上程議案に対する採決が行われ、三十日間にわたる全会議日程を終えました。

■ 新型コロナの感染拡大、過去最大となる第六波

新型コロナウイルスの感染者の県内初確認から二年が経過しました。ウイルスはこれまで何度と変異を繰り返してきましたが、驚異

的な感染力をもつオミクロン株はこれまでで最大の感染拡大をもたらしました。ウイルスの活動は想像を超えます。新たな変異に備え、検査キットの早期手配や入院病床・宿泊療養施設の事前準備はもちろん、医療従事者をどう確保しておくかも重要です。

■ ロシアのウクライナ侵攻に抗議する決議を採択

二月二十四日、ロシアはウクライナへの軍事侵攻を開始しました。国際法はもちろん人道に反するロシアの行為は許されるものではなく、大分県議会でもロシアによる一連の行為に抗議する県議会決議を全会一致で可決しました。

## 2022年 第1回 定例県議会 一般質問・答弁

詳細はHPから 大分県議会 検索

二月に招集された第一回定例県議会にて、私は次の5つのテーマに関する一般質問を行いました。(質問と答弁内容は概要)

- 一、地方移住について
  - ① 地方回帰と移住政策
  - ② 地方移住のサポート体制
  - ③ ポストコロナのツーリズムについて
  - ④ ユニバーサルツーリズム
  - ⑤ サイクルツーリズム
  - ⑥ 観光コンテンツとして
  - ⑦ 空港の活用
  - ⑧ フードテックについて
  - ⑨ 在来種苗の継承について
  - ⑩ 青少年のICTの利用について



一、地方回帰と移住政策  
木田 コロナ禍を契機として、テレワーク等デジタル技術の活用が急速な広がりを見せました。満員電車などの過酷な通勤を余儀なくされている人々が、社会経

一、地方回帰と移住政策  
一、地方移住について  
① 地方回帰と移住政策  
② 地方移住のサポート体制  
③ ポストコロナのツーリズムについて  
④ ユニバーサルツーリズム  
⑤ サイクルツーリズム  
⑥ 観光コンテンツとして  
⑦ 空港の活用  
⑧ フードテックについて  
⑨ 在来種苗の継承について  
⑩ 青少年のICTの利用について



一、観光コンテンツとして 空港の活用  
木田 大分空港は、宇宙港としての価値が上がり、活用の仕方によっては、空港そのものが宇宙旅行を身近に感じることが出来る観光のコンテンツとして成り立ちうると思います。

一、サイクルツーリズム  
木田 来年秋には本県で、第一回目のツール・ド・九州が開催されます。新年度予算案として「ツール・ド・九州推進事業」やサイクルツーリズムを推進する「大分のサイクル魅力発信事業」が計上されています。

Oita Prefectural Assembly 大分県議会 インターネット中継

県議会ホームページにて 一般質問の中継録画を視聴できます

コロナ禍の関係で、団体での議会傍聴をご遠慮いただいております。県議会HPにて、一般質問の全録画をご視聴できますのでご案内します。

(「<https://www.oita-pref.stream.jfit.co.jp/>」 → 「議員から選ぶ」 → 「木田昇」を選択)

空港の活用について、県の見解をお聞かせください。

答弁 議員ご提案のとおり、宇宙港となる大分空港を魅力的な観光コンテンツにすることが重要です。ブランドプロモーション「宇宙ノオンセン県オオイト」に併せ、空港一階足湯コーナーの宇宙仕様へのリニューアルや二階売店の「宇宙グッズコーナー」の拡充・常設化に対し助成を行いました。さらに、国内唯一となるホールバークラフトの運行により、空港の魅力アップも期待されます。県内の関係者と共に「大分空港・宇宙港将来ビジョン」の策定を行なっており、その中でも、観光プログラムの構築や受入環境の整備等について議論を重ねます。

\* 木田の考え ↓ 県独自の宇宙旅行アバターを人工衛星で打ち上げるプロジェクトの検討を要望しました

# 新年度の事業・予算

今回の第1回定例会で2022年度の当初予算と前年度の補正予算(繰越)を審議しました。新年度に実施される主な事業等について説明します。

## 《施策の概要》

### 新型コロナウイルス感染症対策の強化

感染予防から早期発見・早期治療までの一連の対応に万全を期すため、ワクチン接種の体制整備(1,670,000千円)やPCR等検査の無償化(1,200,000千円)、入院病床・宿泊療養施設の確保(19,765,000千円)が進められます。



### 県経済の再興

#### ①商工業の振興

県内企業の体質強化には、DX(デジタル・トランスフォーメーション)の実践が必要となります。そのため、経営者の理解促進に向けたセミナーの開催など「おおいたDX共創促進事業(133,510千円)」等が進められます。

また、新たなビジネスや雇用を創出し、地域経済の活性化を図るため、創業の裾野拡大と成長志向の高い起業家を発掘・育成する「おおいたスタートアップ支援事業(168,143千円)」が取り組まれます。

#### ②観光業の復活

全国を対象とする「新たなGo Toトラベル」として、観光誘客緊急対策事業(令和3年度補正予算繰越分:11,394,294千円)が実施されます。旅行代金の1/5相当、最高5千円/人・泊

(交通付商品は8千円)が補助され、併せて3千円の地域クーポン券が発行されます。

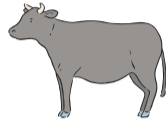
この事業は全国で行われるため、この機会に大分への誘客を強化することが求められます。

また、「ツール・ド・九州2023」を契機にサイクルツーリズムを推進するため、サイクルを活用した滞在型観光モデルコースを作成するなど「大分のサイクル魅力発信事業(19,804千円)」が実施されます。

#### ③農林水産業の成長産業化

本県の顔となる園芸品目(ねぎ、ピーマン、ベリーツ、高糖度かんしょ)を育成し、生産拡大を図るため、認定農業者等が行う栽培施設の整備等を支援する「おおいた園芸産地づくり支援事業(2,066,769千円)」が進められます。

畜産では、繁殖農家で生まれた和牛子牛を預かり共同育成するキャトルステーションの整備が支援されます。林業では、循環型林業の確立をめざし、大径材の利用促進が図られます。水産業では、ブリ養殖の種苗の安定確保に向け、小型天然モジャコの育苗手法の確立が進められます。



### ポストコロナの人づくり

#### ①子育て満足度日本一の実現

出会い・結婚から妊娠・出産、子育てまで、ライフステージに応じた切れ目のない支援が取り組まれます。

「おおいた出会い応援事業(60,654千円)」では、「出会いサポートセンター」による結婚応援を充実させるため、AIが相性の良い相手を提案するマッチングシステムが導入されます。

また、特定不妊治療のうち、保険適用治療と併せて行った先進医療に要する経費について、自己負担が概ね3割となるよう助成が行われます。

コロナ禍で家族時間が増えるなか、浮上したヤングケアラー(大人が担うようなケアの責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子ども)への支援体制が構築されます。

家庭内のことで表面化しづらく、本人や家族にも自覚がないことが多く、社会的認知度の向上と相談しやすい窓口づくりが必要です。

#### ②健康寿命日本一の実現

前回調査の結果、男性が73.72歳で全国1位、女性が76.60歳で4位と大きく飛躍しました。新年度も「みんなで進める健康づくり事業(21,462千円)」や「いきいき高齢者地域活動推進事業(22,076千円)」など13の事業が取り組まれます。

#### ③障がい者雇用率日本一の実現

本県の雇用率は全国7位と、久しく1位の座から遠ざかっています。そこで、アドバイザーによる企業訪問や職場への定着支援等を行う「障がい者就労環境づくり推進事業(81,325千円)」等が実施されます。

また、4月開校の「さくらの杜高等支援学校」では、販売・接客等の実践的な指導を通じ、生徒全員の一般就労に向けた取り組みが進められます。

#### ④移住の促進

県外からの就職・転職を促進するため行ってきたIT分野の移住支援策に、保育や介護、看護の3職種が新たに事業(37,185千円)の対象となります。

また、移住者の住まいづくりの面からも、空き家対策の必要性が増しており、取引の実効性を確保するサポート体制や助成金が整備されます。



### —巨大地震に備えよう—

1月22日の深夜に日向灘沖を震源とし、マグニチュード6.6の地震が発生しました。大分市でも震度5強が観測され、皆様も大変驚かれたことと察します。

県内での震度5強の観測は、2016年の熊本地震以来のことでしたが、今回は内陸部でなく南海トラフ巨大地震が想定される海域内が震源地となったため、その関連性が注目されました。

このような場合、気象庁が「南海トラフ地震臨時情報」の発表を検討することになりますが、今回は評価検討委員会の開催条件となるM6.8に及ばなかったため対象外とされました。

今回の地震を体験し、「いつどこで巨大地震が起きるか分からない」と、改めて実感されたことと思います。食器棚の飛び出し防止、家具の転倒防止、避難グッズの準備・点検など、万全の備えをとってください。

## 最近の活動

### 1月

#### ▶新型コロナ感染が再拡大

(写真:南太平寺 杵築社の竹灯籠)

初詣で「今年こそコロナの終息を」と願うものの、1月中旬からオミクロン株の急拡大による第6波を迎えることとなる。

#### ▶連合大分「2022春季生活闘争学習会」

▶内外情勢調査会「アジアの安定と日米同盟～周辺国の脅威に日本はどう立ち向かうのか～」講師:エルドリッチ研究所代表 ロバート・D・エルドリッチ氏

▶米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の抜本的見直しを実現する日出生台集会(オンライン開催)

▶地方財政セミナー(講師:総務省自治財政局ほか)

▶スペースポート推進セミナー「宇宙港がもたらす大分の未来」講師:ANAホールディングス 鬼塚 慎一郎氏、野村総合研究所 八亀 彰吾氏



### 2月

#### ▶大分政経懇話会「新型コロナウイルス感染症の今後を考える」講師:昭和大学医学部客員教授 二木 芳人氏

テレビでお馴染みの先生ですが、コロナ再拡大のため残念ながらオンラインでの講演に変更。先生の見立てでは、コロナウイルスは後2年は続くとのこと。(これは間違いであってほしい)

#### ▶連合大分制度政策委員会・議員懇談会



#### ▶2022年度大分県当初予算案発表

知事から、ポストコロナを見据え、大分県版地方創生を加速前進させたいとし、前年度予算を約150億円上回る積極予算とする旨の説明を受ける。

#### ▶県議会政策勉強会「調査活動からみた大分」講師:日本政策投資銀行 大分事務所 佐野 真紀子氏

#### ▶第1回定例県議会開会

#### ▶おおいたそらはく(別府ビーコンプラザ)

宇宙技術および科学の国際シンポジウム(ISTS)大分県大会の開幕イベントとして開催。大分空港がスペースポート(宇宙港)としてスタートすることを実感。



### 3月

#### ▶商工観光労働企業委員会、新型コロナウイルス感染症対策特別委員会(中間報告とりまとめ)

#### ▶県議会手話講座

大分県手話言語条例の制定から1年が経過。手話への理解と普及をさらに広げていきたい。(練習を重ね、手話で自己紹介できるようになりました)

#### ▶第1回定例県議会閉会



公式LINEはコチラ  
木田昇の議会・政務活動を随時更新中。  
ご意見・ご要望なども、お気軽にご連絡ください！  
\*QRコードからお友達登録をよろしくお願いします。  
県民クラブHPはコチラ  
http://www.oct-net.ne.jp/kenmin-club/

竹の子記  
予てから懸念されていたものの、北京オリンピックの閉幕から僅か4日後の2月24日、ロシアはウクライナへの軍事侵攻を強行しました。この間のロシアの行為は、国連憲章、国際条約等に反し、国際社会の平和と秩序、安全を脅かすもので、断じて許されません。兵士のみならず、多くの住民が犠牲となっており、即時停戦とロシア軍の即時撤退を強く求めます。人類は長い歴史のなかで争いを繰り返して、個人間の喧嘩のようなことが、いつしか国家間の争い(戦争)となり、国家間の争い(戦争)となり、科学技術の発展とともにその犠牲者は大規模・深刻化し、辛酸極まりない結果を招きました。先の大戦の如く、最終的に核兵器が使用されるような事態が繰り返され、はなりません。▼残念ながら、世界唯一の戦争被爆国である我が国は、核兵器禁止条約に参加していません。ロシアによる今回の侵襲の目的が、ウクライナへの西側の核ミサイル配備の阻止にあるのであれば、核兵器は戦争を抑制する存在であることを明示する必要があります。▼被爆地ヒロシマの出身である岸田総理におかれては、世界平和の維持、核兵器根絶に最大限の力を尽くすことを強くお望みします。

ICAN (核兵器廃絶国際キャンペーン)